



令和8年度全国学力・学習状況調査の結果について

校長 橋本 潮

令和8年度全国学力・学習状況調査の結果が7月に公表されました。本調査は、国語と算数の「教科に関する調査」の他、「生活習慣や学習環境に関する質問調査」からなります。実施は6年生のみですが、これまでに本校で学んできた教育活動に対する結果として、課題と今後の対策についてお伝えします。

分類	区分	平均正答率(%)			正答率の差	
		本校	都	国	対都	対国
国語	全体	50	65	60.9	▲ 15	▲ 11
	領域別					
	A 話すこと・聞くこと	54.4	70.0	65.8	▲ 16	▲ 11
	B 書くこと	31.6	50.4	45.7	▲ 19	▲ 14
	C 読むこと	55.3	68.8	65.9	▲ 14	▲ 11
算数	全体	46	63	56.4	▲ 17	▲ 10
	領域別					
	A 数と計算	51.3	68.0	61.1	▲ 17	▲ 10
	B 図形	35.5	63.4	55.3	▲ 28	▲ 20
	C 測定	52.6	82.9	78.1	▲ 30	▲ 26
	C 変化と関係	31.6	49.9	41.1	▲ 18	▲ 10
	D データの活用	40.8	53.9	48.6	▲ 13	▲ 8

※学習指導要領では、「測定」「変化と関係」はいずれも「領域 C」に該当します。

全体的に平均正答率は、都や国よりも低く、基礎基本の習得が課題として明らかです。その中でも、特に苦手とする分野とその対策について、以下、教科別に示します。

4 すずしく過ごせる衣服の色は何色か
「色の効果」という本には、「青は海や水を連想させ、すずしうに見える。」と書かれている。青や水色などひんやりとしたイメージのある色の服を着ることで、長そででもすずしく過ごさることができそうだ。

また、

5 終わりに
これまでなんとなく選んでいた衣服も、日差しをさえぎるくふうや、衣服の形、着方、色をくふうすることによって快適に過ごせることが分かった。今回分かったことを生かし、これからの生活の中で衣服をくふうしていきたい。

(参考文けん)

【集めた情報】

本の題名	本文の一部
色の効果	青は海や水を連想させ、すずしうに見える。白は雪の色であり、冷たい印象がある。赤があたたかく感じられるのは、太陽や火を連想させるからだ。
生活と太陽	白は熱や光を反しやる色のため、熱くなりにくい。一方、黒は熱や光をきゅうしゅうし、熱くなりやすい。
夏のくらし方	白やうすい青はさわやかに見え、すずしく感じます。さらに、着ている人だけでなく、周りの人にもすずしさを感じさせます。

国語では、領域別では「B 書くこと」の正答率が31.6%と特に低く、都や全国平均と大きく離れています。例えば、本校の児童が、最も誤答が多かった設問(正答率15.8%)から、本校の課題が分かります。

【大問2四】「4 すずしく過ごせる衣服の色は何色か」について、本から「集めた情報」を根拠にして、**空欄**の中に入る文章を前後につながる文脈で書く。

【正答例】「生活と太陽」という本には、「白は熱や光を反しやる色のため、熱くなりにくい。一方、黒は熱や光をきゅうしゅうし、熱くなりやすい。」と書かれている。特に強い日差しが照りつけるえん天下では、黒い服より白い服を着る方が、すずしく過ごすことができそうだ。

「色の効果」については、既に書かれていますので、残りの本の「生活と太陽」もしくは「夏のくらし方」のどちらかを選び、その内容を引用して回答します。この設問を正答するためには、「元々の文章

に書かれている内容を読み取る力」「集めた情報の中から必要な情報を選択する力」「引用して自分の考えが伝わるように表現する力」が必要です。

「生活習慣・学習環境に関する質問調査」では、本校の児童は、普段の読書時間を「全くしない」と答えた割合が42.1%に上り(都23.3%)、家の蔵書数が10冊以下の割合も36.8%(都8.7%)と、活字に触れる環境が極めて限定的です。また、授業で「文章を読んで理解したことに基づき、自分の考えをまとめる」活動を「している」と答えた児童はわずか5.3%(都37.7%)です。日常的に文章を構成して書く経験が不足していることが、国語の「書くこと」や「記述式」の正答率の低さに直結しています。本校では「活字離れ」と「文章での表現機会の不足」が、明らかな課題となっています。

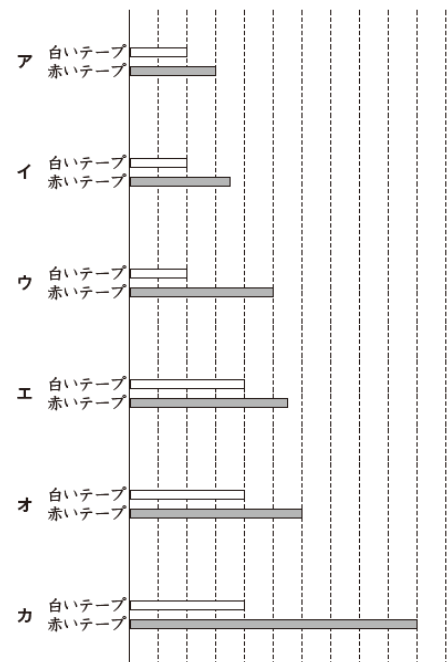
対策としては、基礎的な言葉の使い方、情報の扱い方などの知識を確実に定着させるため、教科書に準拠したドリルの反復や漢字の読み書き等の語彙学習を重視する必要があります。また、文章を読んで自分の考えを論理的に記述する表現力を養うため、短い作文や要約の練習を、授業の中で日常的に取り入れることが有効です。さらに、読書の時間を確実に確保して、読書の習慣化を図ります。

算数では、領域別では「B 図形」(35.5%)や「C 変化と関係」(31.6%)が低調です。また、「C 測定」は52.6%ですが、都(82.9%)や全国(78.1%)に比べて約26～30ポイント下回っており、最も大きな乖離を示しています。本校の児童は、図や表などを思考のツールとして認識できていないため、イメージが重要となる「B 図形」や「C 測定・変化と関係」において、自力で解法を導き出せない要因となっています。

本校の児童の正答率が最も低かった(15.8%)「C 変化と関係」の設問は、次の通りです。

【大問2四】赤いテープの長さが、白いテープの長さの1.5倍になっている図はどれか、ア～カから2つ選ぶ。
【正答】アとオ

対策としては、図形や測定、数量の変化といった概念をただ暗記するのではなく、図や表、具体物を用いて視覚的に仕組みを理解する学習が必要です。「生活習慣・学習環境に関する質問調査」でも、「図形や数直線などの図が役に立つと思った」と回答した児童は21.1%(都57.7%)に留まっています。問題文を読んだら、関係図や線分図、表、グラフ、数直線などに書いて考えさせ、視覚的に理解させる習慣を付けていくことが必要です。さらに、思考力や記述力を高めるために、単に計算で結果を求めるだけでなく「なぜその式や答えになるのか」という根拠を、言葉や数式を使って他者に説明する学習活動を授業に取り入れることが効果的です。



2学期からの学習では、こうした本校の児童の課題を全教職員で共有し、解決に向けた取組を進めてまいります。具体的には、①児童のタブレット端末の持ち帰りの推進、②朝学習の時間(8時25分から8時40分まで)の確保、③教育効果の薄い学校行事の精選です。これにより、AIドリルを学校と家庭で積極的に活用し、朝読書による読書の習慣化を図っていきます。また、学校行事を精選することで、授業時数を確保していきます。ご家庭とも本校の課題を共有し、連携して課題解決を図っていきたいと考えております。